

「金が欲しい。金がかく、なんでもい
いから、一発逆転、金持ちになりたい」

まさに血眼。目から血が出そうなほどの
眼光で安アパートの天井を睨んでいたのは、
一八年ほど前の話。

私は、就職活動をしないまま大学を卒業。
ダブルスクールで挑んだお笑い養成所の卒業
オーディションにも落ちて、無所属になった。
焦っていた。

そもそも『芸人』は水物と呼ばれ、社会的
信用はない時代だった。

芸人にすらなれていない。何者でもない。
自分の行く末にじれったさを抱えていたの
は、芸人仲間みんな同じだった。

それに加えて、とにかくみんな金がない。
養成所の授業料を踏み倒す者、家賃を払え
ず追い出される者、知らず知らずのうちに詐
欺グループに加担してしまったりしいと噂が
流れる者もいた。

こんなことをするからダメなのだ。信用も
へったくれもない。

でも、気持ちを察すると無下にもできない
自分がいる。

当時の行く当てのない焦燥感、今にも爆発
しそうな自己顕示欲を思い出すと、鼓動が速
くなる。

だから最近報道を見るたびに胸が痛い。

SNSを使った特殊詐欺に加担してしまう
若者についての事件だ。



絵・江口修平

自由になるための翼

バービー

時代が違えば、自分や仲間だったかもしれ
ない。

夢がなければ、もしくは夢を叶えるお金が
なければ、明日を生きるお金がなければ……。

そんなふうに考えてしまう。

だが、実は私には蓄えがあった。

一発逆転したいと言いながら、実はコツコ
ツ切り詰めていたからこそ、踏み外さずにい
られた。

食費一万円生活をしていた時でさえ、貯金
をしていたし、恵まれない地域への寄付も捻
出していた。

表でスリリングに暴れ回るには、多少の余
裕が必要なタイプだ。

いわゆる芸人の無理して高い家賃の部屋に
住めば売れるという根性論が、合わないのだ
ろう。

ビビりと大胆さのバランスは、自己紹介の
ときに長所として発表できそうなくらい気に
入っている。

先立つものは金。

夢を掴むチケットの購入費用だ。そして、
それはやがて自由になるための翼にもなった。

夢に投資できるお金を準備していたから、
私は悪への誘いに乗らずに済んだ。のそもし
れない。

何者にもなれなかった私が欲しかったのは
目の前の人参のようなお金ではなく、まっす
ぐな自分でいるために必要なお金なのだ。

バービー●芸人。1984年北海道生まれ。2007年、お
笑いコンビ「フォーリンラブ」を結成。バラエティーを
中心に、ワイドショーのコメンテーターやラジオのパー
ソナリティーを務め、著書には講談社『本音の置き場所』
に続き、月刊誌「PHPスペシャル」での人気連載をまと
めた『わたしはわたし』で生きていく。』を出版。地
元の町おこしやピーチ・ジョンとのコラボ下着をプロデ
ュースし話題になるなど多岐にわたり活躍中。

